

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和元年六月度 入選句（投稿総数二千五百七十七句・小中学投句数千九百五十一句）

特選

カタツムリ最近見ないどこですか 大垣市

成瀬 謙伸(小五)

梅雨になるとよく見られるかたつむり。小さなかたつむりを、不思議な気分で見つと見ていた幼い頃を思い出した。かたつむりを最後に見たのはいつだろう。大人の私が見なくなつたのかと思つていたら、どうやら若い作者も見えていないようだ。地球の環境が変わつてきたのか。はまた、出るタイミングを伺つているのか。考えさせられる俳句である。

衣がえ小さくなつたお気に入り 大垣市

藤原 唯良(小五)

日々ぐんぐん成長する子どもたち。普段の生活では成長に気付かないであろうが、更衣になると、自分の成長にびっくりする。去年までは着ることができたお気に入りのシャツ。短パン。でも、今年はちよつぱり小さくて、お出かけには不向きだ。どうしよう。あんなにお気に入りだつたのに。「お気に入り」という言葉が読み手の心を離さない俳句である。

どこまでも夜店の明かりつづいてる 大垣市

松岡 朋葉(小六)

夏祭りの夜店。あんなにまぶしかった太陽が山に隠れた。少しか風が吹く。浴衣を着た女の子。あの子が持つている金魚。お面をかぶつた幼い子。風船を手離さない兄弟。道沿いに続く夜の明かり。焼きそばのソースの香り。ふつくとしたわたがし。きらきら光る電飾。このまま一晩中お祭りが続けばいい。夢のような世界が広がる俳句である。

秀逸

しゃぼんだまたかくとんでもきえていく 大垣市

伊藤 百花(小三)

なつのそらたいようきれいあしたはれ 大垣市

石田 玲雄(小三)

あじさいのはなよりあおいそらのいろ 大垣市

北村 陽(小四)

足ぬけず歩くのやつと田植する 大垣市

奥田 蒼弥(小五)

日がさから顔がはみ出すふたごの子 大垣市

炭竈 玲亜(小五)

かきごおりよそ向いてたらとけていた 大垣市

高橋 梨里(小五)

うであげてバンザイしてるザリガニだ 大垣市

服部 晃大(小五)

せんぷうきプリント全とばしてく 大垣市

林 心音(小六)

水田でかえるの夫婦大合唱 大垣市

宮森 彩羽(小六)

はれつしたキャベツをだいてじいがくる 大垣市

柘植 結吏(小四)

入選

飛魚が水のつぶたち連れて飛ぶ 大垣市 山本 濤(中二)

ビー玉の音がなりつつラムネのみ 大垣市 難波 悠夏(中二)

サイダーがコップの中ではじけとぶ 大垣市 富田 楓桂(中二)

ゆらゆらと風の音響くハンモック 大垣市 清水 晴都(中二)

スイカ割りどこに当たるかうんだめし 大垣市 日野 亜弥乃(中二)

青蛙雨がふりだし大合唱 大垣市 加納 彩奈(中二)

うしがえるとぶのがにがてかわいそう 大垣市 小松 壮助(小三)

けさみたらぼくのおさがお二葉でる 大垣市 棚橋 蒼(小四)

パタパタとはねをひろげてつばめさん 大垣市 栗田 あおい(小四)

つばめの子すから顔だしていない 大垣市 立川 ゆな(小四)

入選

ろくがっはしゆくじつなしでさみしいな 大垣市 白澤 奈央(小四)

かえるなく早く帰ろう雨がふる 大垣市 篠田 風樹(小五)

のき下にピヨピヨ鳴くよツバメの子 大垣市 池田 有里菜(小五)

熱帯夜はねの音してねられない 大垣市 國嶋 小春(小六)

夏の夕門限わすれおにごっこ 大垣市 石井 愛大(小六)

夏の服いっぱいあって選べない 大垣市 渡邊 芽依(小六)

試合中流れ出るあせ目に入る 大垣市 新居 蒼太(小六)

サングラスくらくてなにもみえないよ 大垣市 大はし れいら(小二)

ごきぶりがもうスピードでにげちゃった 大垣市 早野 みらん(小三)

梅雨の日はせんたく物もおるすばん 大垣市 辻井 美葵(小五)

選者吟

ささやきにささやき返し蛍の夜

恵理